

〇〇食品商店

北京、上海では菓子専門店として「〇〇食品商店」と名付けられるお店が数多くあるようです。地元でおいしいと評判のお菓子やお土産が対面販売されており、地方からの観光客も多く立ち寄ります。



こんなお菓子が
大好き

今回の調査で北京、上海の人が特に好きなお菓子としてあげてくれたものです。ポテトチップス好きが目立ちました。



スナック菓子

チョコレート菓子



写真提供：MINTEL社GNPD

よく食べられている野菜・果物、ナッツ類

きゅうりやトマト、パプリカなどの「野菜」、梨やぶどうなどの「果物」、ひまわりやスイカの種などの「ナッツ類」、なつめ、ドライフルーツなど日本では間食として馴染みのないものが多く食べられていました。



上から時計回りにドライイチゴ、パプリカ、トマト、きゅうり、ドライトマト、なつめ、ひまわりの種、スイカの種

まとめ

今回の調査より、北京、上海、東京における会社員の間食の実態や意識について、北京と東京では大きな違いが見られ、上海は経済発展と同様に北京と東京の中間的な位置づけになっていることが、改めて明らかになりました。

まず、間食の種類の違いとして、東京で間食と言えばお菓子や軽食類が主ですが、北京では野菜・果物、ナッツ類が多く食べられており、上海では野菜・果物をはじめとして、お菓子や軽食類なども食べられていました。次に間食にかかる費用ですが、北京、上海では東京と比較してかなり多いことがわかりました。さらに会社での間食スタイルにも違いが見られ、東京ではデスクで仕事をしながら一人で間食するのに対し、北京や上海ではコミュニケーションの一環として、デスクを離れて皆で間食するという違いも明らかになりました。これら、間

食の種類、費用、スタイルが、相互に密接に関連し、3都市の違いとなつて表れていることが推測できました。

お菓子に求めることは、「おいしさ」が3都市とも共通して重要なポイントとなっていました。さらに、北京では安心・安全、上海では経済性・利便性と、「おいしさ」以外も重要視しているのに対し、東京では特にこだわりはなく、食事同様に「おいしければ何でもいい」といった関心の低さが表れていました。

今後、日本だけでなく中国においても、3回の食事を基本として、間食が食生活を乱すことのないよう、上手に利用していくことがますます必要になってくるでしょう。また、中国の消費者は国内の菓子、特にスナック菓子やチョコレートの品質や味にまだまだ満足しておらず、今後その要望や好みを取り入れた商品が普及することで急激な市場の拡大が見込まれると思われま

調査概要

調査対象：〈共通〉：週1回以上会社で間食する人
 〈北京・上海〉：20～40代会社員 男女 世帯年収60,000元以上
 〈東京〉：20～40代会社員 男女 年収不問
 サンプル数：900名(各都市・年代 男女各50名)
 調査方法：インターネット調査

実施期間：〈北京・上海〉：2010年7月30日～8月9日
 〈東京〉：2010年8月6日～16日

※本レポートの文章、データ、イラストを許可なく複写・複製・転載することを禁じます

日清オイリオグループ株式会社

■お問い合わせ先
 生活科学研究室

http://www.nisshin-oillio.com ※ホームページでは、バックナンバーをご覧いただけます。

〒104-8285 東京都中央区新川1-23-1 TEL.03-3206-5218

■発行日 2010年11月15日



揮発性有機化合物を含まない大豆油の Non-VOCインキを使用しています。

